

第30回環境を考えるポスター展講評

審査員長 坂本 一成

■ 審査にあたって

募集テーマは、

「環境破壊の現状（地球温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊、野生生物の絶滅等）」

「省エネルギー、ごみの分別、リサイクル製品の利用等」

「身近な環境問題（ごみの散乱、自動車の排気ガス、川を汚さない等）」

「自然との共生(里山の保全、昆虫や野鳥との共生、緑化の推進等)」

「自然エネルギーの活用(水力、風力等)、電気自動車、燃料電池車等」です。

審査にあたり、それらのテーマを小中学生の目線で描いているか、自分のイメージが伝わるように配色や構図、レタリングなどに工夫が見られるか、模倣によらず、自分なりの作品を創り出しているか、そして募集の条件にあっているか等を踏まえながら審査員4名で審査を行いました。

■ 講 評

- ・ 「身近な環境問題」「環境破壊の現状」「省エネルギー、ごみの分別、リサイクル製品の利用等」「自然との共生」などの問題を小中学生の目線でしっかり考え、それぞれの思いが伝わるようにキャッチコピーやデザインに工夫がみられました。一枚一枚の作品から私たちの環境を大切に守りたいという強い気持ちが伝わりました。
- ・ 小学生の作品は、身近な生活から環境問題をとらえ、構図を工夫し、丁寧に文字を描こうとしている作品が見られました。その中でも受賞された作品は、小学生らしい発想やキャッチコピー、配色の工夫が見られました。最優秀賞の作品「守ろう 美しい自然」は、左右に汚れた自然と美しい自然に分け、2人の天使の表情や色、持っている物、魚や亀などの表情など細かいところまで考えて丁寧に描かれています。環境へのやさしい気持ちが感じられる作品となっています。
- ・ 中学生の作品は、いろいろな視点から環境問題をとらえ、見る人に訴えるにはどうしたらよいかを考えて描かれています。その中でも受賞された作品は、テーマを決め、じっくりと構想を練って取り組んだ様子が感じられました。丁寧にしっかりと文字も描かれています。最優秀賞の作品「命の危機迫る 地球温暖化」は、心臓を地球として表現し、バックの色と文字の色にも工夫が見られました。デザインの工夫によって見る人に強い印象を与える作品となりました。
- ・ 私たちの周りには、たくさんの参考になるポスターがあります。それらを鑑賞して、これからの制作に活かしてほしいと思っています。また、今回の児童生徒の作品を鑑賞して、少しでも環境について考える機会になればと思っています。